

## 日本災害看護学会先遣隊令和元年台風第 19 号活動報告

活動期日：2019 年 10 月 16 日(水) 3 日目

活動地域：千葉県館山地方 被災地域

活動者：先遣隊 山崎 達枝、中島 麻紀

活動目的：

- 1) 10 月 12 日発生した大型台風第 19 号の被災状況を把握する。
- 2) 僅かの 1 ヶ月間に(9 月 9 日令和元年台風第 15 号)2 度の大きな災害に遭遇した、被災者の衛生状態と心身の健康状態、および支援ニーズを把握する。
- 3) 上記 1)・2) から必要な支援を考え、適切な支援につなげる。

活動の実際：

### 9:15 【館山市災害対策本部訪問】

館山市内の台風 19 号の被害状況と対応について確認した。訪問時の停電は、西岬 800 軒であり、復旧が進んでいる。

避難所の開設状況は、菜の花ホール、旧神戸小学校の 2 箇所、合計 16 世帯 (20 人) であり、家は住めるが詐欺被害が怖い方や台風 15 号での避難から継続されている方である。今後、避難所で避難されている方の自立を促していく必要があると考えている。

今後の市の方針としては、健康課が乳幼児・母子、高齢者福祉課が障がい者、社会福祉課が高齢者と分担し、電話での安否確認等を進めていく。また大腸がん検診時に確認する等、平常時のケアの中で地域住民の状況を確認していく予定である。

館山市の A 地区では 5 地区の 11 人の区長・副区長がいるが、区長の疲労も感じられ、区長の労いが必要である。被害が大きいのが、富崎、船形、西崎地区である。

本日包括支援センターにおいて、今後の対策についての会議が予定されている。

### 10:30 【富崎地区公民館訪問】

富崎地区内の状況を確認した。区長が高齢者世帯や被害が大きい等気になる世帯を抽出し、マッピングしたものを作成していた。

マッピングをもとに抽出された世帯の内、8 世帯を訪問した (対面 6 世帯)。対面 6 世帯中、1 世帯のみ停電中であった。他 5 世帯は 15 日夕に復旧したとのことであった。6 世帯中、今後フォローが必要と考えられた世帯は 2 世帯であった。2 名が 200 台の高血圧であったため、早急に受診を勧めた。また、他 1 名は耳鳴りによる不眠を訴え、1 名は黄染の症状が感じられた。全訪問世帯は雨漏りしており、雨漏りしていない部屋での生活を強いられていた。カビの部分には、完全防具(マスクや手袋の装着など)で、次亜塩素剤で拭いているが、高いところはとどかないため苦勞している。屋根や窓ガラスの修繕もすぐには難しく、台風第 15 号に続いての台風第 19 号での被害により疲労が感じられた。

15:15 区長に訪問世帯の状況を報告した。

### 15:45 【館山市災害対策本部訪問】

A 地区状況と今後フォローが必要と考えられる 2 世帯の状況と症状を訴えられた方等について詳細を

報告した。本日の地域包括支援センターにおける会議では、今後生活面の支援として特に被害が富崎、西崎、船形地区の全戸訪問を行い、地域性を考慮し実施していく予定しているとのことであった。停電は0件と記載されていた。カビ対策の拭き掃除にとっても苦勞している。支援体制について依頼をした。

避難所内に要配慮者を抱えている家族は大変であると住民が話された。このような方をどこの課が受け持つのかしっかりと検討してほしいと依頼した。

課題：

台風第15号に引き続き発生した台風第19号により、地域住民の心勞が重なり、高血圧や不眠の症状の方が増えてくる可能性が考えられる。

家屋の修繕も進まず、ストレスを感じやすい環境下にある。

支援対応としては、平常時のケアの中でのサポートを検討しており、今後全戸訪問時などのマンパワーの不足は考えられる。